

< 研究の概要 >

1 平成19年度研究主題

心豊かで自立する力の育成

～ 学級経営や体験的活動の充実を通して～

2 主題設定の理由

本校の教育目標は、生徒一人ひとりの生きる力をはぐくむことを目指し、「知・徳・体の調和がとれ、自らに誇りを持って心豊かにたくましく生きぬく生徒の育成」としている。さらに、本年度の重点課題として、「心の教育の充実」、「基礎的・基本的な内容の確実な定着」などがあげられている。

本校の生徒は比較的明るく、素直で、良い面を多く持ち合わせている。そのため、学校全体が落ち着いた状態にある。しかし、社会のモラルの低下や人間関係の希薄化などにより、子どもたちの意識や行動にも少しずつ変化が見られるようになった。

そこで、子どもたちがやる気を起こし、心豊かに自立し、生き甲斐のある人生を送れるようにするために、望ましい人間関係づくりや規範意識の高揚、思いやりの心の育成が必要となってくる。

そのために、本校ではまず学級経営を充実させるために、話し合い活動や係活動を活発にさせ生徒の自主性を育てたいと考えている。さらに、宿泊学習や修学旅行、職場体験学習などの体験的活動を充実させることで、豊かな人間性や社会性を身につけることができると考える。

3 研究の視点

(1) 学級経営の充実に関する研究

3年間を見通し、学校・地域の特色、生徒の実態に応じた年間指導計画の作成

望ましい集団づくりのための指導の在り方の研究と実践

生徒の自主性を高める学習内容や形態の工夫

主体的な生徒会活動や学校行事の推進

(2) 体験的活動の充実に関する研究

自然体験やボランティア活動等の推進

各教科や道徳及び総合的な学習の時間との関連化

家庭・地域との連携による豊かな教育環境づくり

4 研究の全体計画

(1) 研修の努力点及び具体策

努力点

教師としての人間性と専門性を高めるために、全体・学年・個人の研修の充実

に努める。

具体策

- ア 授業を核とした校内研修の充実
- イ 学年部会・教科部会・分掌部会の充実
- ウ 生徒指導についての事例研修等
- エ 道德研究会を活用した校内の道德指導の充実
- オ 特別活動研究会を活用した校内の特別活動指導の充実
- カ 研究テーマに沿った実践を通じた，研究とそのまとめ
- キ パソコン研修と活用の促進
- ク 標準学力検査や「基礎基本」定着度調査の活用方法についての研修の実施
- ケ 先進校視察や教育センター等の教育機関を利用した研修の促進

(2) 研修計画

月	研修内容	月	研修計画
4	校内研修計画	8	特別活動指導案検討(学年) 校内安全対策・共通理解 特別支援教育
5	生徒指導全体計画・共通理解 小中連携研修会		
6	特別活動全体計画・共通理解 標準学力検査の分析(教科)	9	特別活動・研究授業研修
		10	教育課程 特別活動研究大会
7	特別活動事例研究(学年) 校内設営等共通理解	11	道德・人権同和教育
8	パソコン実技研修 特別活動共通理解	1	生徒指導(講師招聘)
		2	進路指導
		3	年間反省・次年度計画

5 研究の実際

(1) 年間指導計画作成のポイント

- 地域や学校，生徒の実態等の把握
- 生徒の興味・関心，能力・適性の十分な分析と理解
- 自主的・実践的な活動を助長すること
- 授業時数を配当した指導計画

	3年			生徒会活動	学校行事
	活動内容	(1)	(2)		
4	1年間の見通しを持つ 充実した学校生活を送ろう 希望の実現に向けて			対面式 年間活動計画 代議員会	入学式，始業式 身体測定
5	選択教科を生かそう 進路を考えよう			生徒総会 専門部会 リサイクル活動	持久走大会 一日遠足

(2) 望ましい集団づくりに関する研究と実践

学級経営に関する共通実践

生活面	ア 基本的な生活習慣の徹底（あいさつ、服装・身なり等） イ 時間で始める。（時間厳守） ウ 作業の徹底 エ 教室環境の整理・整頓（帰りの会後の見届け） オ 朝・帰りの会の内容の工夫
学習面	ア 読書の推進 イ 学業指導（学習訓練）の徹底（学期1回） ウ 各教科での学習オリエンテーションの実施 エ 日記・宅習・未提出者の居残り指導 オ 学習できる環境づくり
その他	ア 生徒との人間関係づくり（声かけ・教育相談等） イ 気づかせる・考えさせる手だて ウ 保護者との連携

特別活動研究大会への取り組み（平成19年10月16日実施）

< 研究テーマ >

「豊かな人間関係づくりを通してたくましく生きる力を育む特別活動」

< 研究授業 >

- 1年 ... 文化祭に向けての話し合い（学級活動）
- 2年 ... より良い学級にしていくために（生徒会活動）
- 3年 ... 進路決定に向けての話し合い（進路指導）

< 実践例 >

- 1 題材 「文化祭への取り組み」（1年）
- 2 学習指導要領との関連

1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること (イ) 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
--

3 題材設定の理由

ここ数年、学校内外を問わず、いじめ・自殺問題をはじめとする様々な人間関係をめぐるトラブルが相次いで見られるようになってきた。また、学校内でも、お互いの人間関係づくりの未熟さが原因で、信頼関係を築けなくなってしまうことも、見られる傾向にある。

例えば、思いやりのない、相手を誹謗中傷してしまうような、軽はずみな言動をとってしまったり、相手の考えを受け入れようとせず、自己中心的な主張ばかりをしたりすることで、ますます人間関係をこじれさせてしまいかねない場面も多く見られるようになって

きた。本校でも、人間関係づくりの未熟さが原因で、友人間でトラブルとなってしまっている事例も数多く見られる。また、学級でも、明るく楽しそうに生活しているようでいて、たまに軽はずみな一言で、周りの友人たちに悪い影響を与えてしまうことすら見られる。

今後、学校教育において、生徒たちの様々なコミュニケーション能力を常に意識しながら培っていかねばならない時期にきている。

そこで、本題材では、学級での文化祭への取り組みについての話し合い活動を行う。それを通して、いろいろな意見や立場の異なる級友と関わり合ったり、積極的に向き合って協力しようとしたりすることで、級友の素晴らしいところを見つけ、話し合い活動を通して、人間関係を豊かにしていくという主旨でこの題材を設定した。

4 指導目標

- (1) 文化祭での取り組みの過程の問題点についての話し合いに、みんなで協力して積極的に取り組もうとする態度を養う。
- (2) 学級集団での取り組みの大切さを理解させ、相互理解を深めながら豊かな人間関係の向上を図る。

5 生徒の実態

1学期も校内合唱コンクールや校内持久走大会、学級設営コンクールなど、学級での協力が不可欠な行事も数多く実施され、学校行事への関わり方・取り組み方にも少しずつではあるが、学級全体を通して理解しつつあるように思える。

1学期終了時のアンケート（無記名で実施）によると、行事関係では、以下のような反省点が数多く出された。

- ・学級設営コンクールにおいて、学級の設営物を、みんなで協力して、コツコツと仕上げたことによって完成させることができた。優秀賞を取ることはできなかったが、自分たちなりに、最高の心のこもった学級設営になった。
- ・学級の設営物のデザインをみんなで意見を出して、がんばって完成できた。
- ・人の話をお互いにしっかりと聞こうと努力したり、自己中心的なところを、もっと直していくと、もっとまとまりのあるクラスになっていくと思う。
- ・みんなで「やるぞ!」という気持ちになっているのにも関わらず、数名の人たちが「どうでもいいや」みたいに思っている人がいて、少しまとまりがないから、みんながしっかりとけじめをつけて、2学期はもっとまとまりのあるクラスをつくっていったらいいと思う。
(生徒のアンケートより)

これらの反省から考慮すると、学校行事に前向きに頑張っていこうとする生徒となかなか無関心で積極的になれない生徒とが入り混じって存在しながら、お互いの心の葛藤が数多く見られた1学期であった。また、どのような協力の仕方があるのか、どのように一人一人が話し合いを持ち活動すれば、まとまりのあるクラスづくりに貢献できるのかが、なかなか分からない生徒もいる状況であった。

2学期当初より、全学年で話し合い活動のオリエンテーションを実施し、クラスでも話

し合い活動の基本的な流れについて、様々な題材で話し合わせてきた。その結果として、少しずつではあるが、生徒たちも話し合い活動での意見の述べ方などが定着しつつあるように思われる。

また、中学生生活も半年が経過しようとしているが、4月当初に学級全員で話し合いで決定した学級目標である「みんなで支え合い、何事にも全力で取り組むけじめのあるクラス」をみんなで守っていこうという意識は少しずつではあるが高くなりつつあるように思われる。

6 活動計画

過程	期日	活動の場と主体	活動の内容	指導・援助の留意点
事前	9 / 6	学級運営委員会 (文化祭実行委員・学級役員・各専門部長で構成)	各専門部から発案された文化祭展示物の内容を検討する。	人任せにならないような話し合い活動・製作活動の意識づけを行う。
	1 3	学級運営委員会	展示物作成のための準備物を検討する。	展示物の完成に向けて、必要な物を出し合わせる。
	2 0	学級運営委員会	展示物作成のための資料収集と活動計画の立案を行う。	資料を図書館やインターネット等で探し、無理のない計画を立てさせる。
	1 0 / 1 1	学級運営委員会	展示物作成の活動状況の反省を行う。次週の活動計画を立案する。	現時点での活動状況を把握し、今後の活動の見通しを立てさせる。
	1 2	学級活動(全員)	展示物作成の役割分担と進捗状況の確認を行う。	学級全体での役割分担の確認と専門部ごとの進捗状況を確認させる。
本時	1 6	学級活動(全員)		
事後		学級運営委員会	決定したことの妥当性はどうか確認する。	最後まで、自らの役割に責任を持ちながら、全員で協力して取り組むように意識づける。

7 本時の実際

(1) 主題 「文化祭への取り組み」

(2) 本時のねらい

ア 学級運営委員会で提示された問題点に対して，人をあてにすることなく，自分から進んで，その改善策を積極的に考えて発表できる。

イ いろいろな意見や立場の異なる級友の話を良く聞き，課題の解決に向けて，話し合い活動に取り組むことができる。

ウ 話し合い活動に積極的に参加し，級友の良い点を見つけながら，自分も集団の中の一人として協力して取り組もうとする雰囲気をつくらせる。

(3) 本時の展開

過程	活動の内容	時間	形態	指導・援助の留意点	準備・資料
活動の開始	<p>1 活動状況について，学級運営委員会で出された問題点を提示する。 <文化祭実行委員></p> <p>2 本時の活動テーマを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>文化祭に向けての問題点を改善しよう。</p> </div>	3分	一斉	1 文化祭に向けての活動状況の問題点を提示し，実行委員のもとで進行させる。	・問題点をまとめた掲示物
活動の展開	<p>3 問題点をどう改善していけばよいかを各専門部班で話し合う。<司会係：学芸部長></p> <p>4 改善策を専門部班ごとに，どのような取り組みをしたらよいか発表する。 <司会係：学芸部長></p> <p>5 各専門部班で出された改善策を元に，今後の学級全体の活動の見通しを立案する。 <司会係：学芸部長></p>	15分	グループ	3 改善すべき点を，具体的に話し合わせる。また積極的な参加姿勢になるように働きかける。	・付箋紙 ・広幅用紙 ・油性ペン ・ワークシート
		10分	グループ	4 どのように改善すべきなのか，具体的に意見を出させる。	
		10分	一斉	5 よりよいものをつくっていくには，どのような気持ちや態度で取り組みこれから何をすればよいかを考えさせる。	

活動のまとめ	6 文化祭を成功させるためには何が大切かを一人一人が考え、発表する。(自分でできること・学級でできることなど) ＜教師＞	8分	個	6 目前に迫った文化祭を成功させるために、一人一人に成功に向けての決意を書かせる。	・ワークシート
	7 話し合い活動のまとめをし今後の活動の意欲づけをする ＜教師＞	2分	一斉	7 これからの学級集団での積極的な取り組みの大切さを理解させる。	

8 評価

- (1) 学級運営委員会で提示された問題点に対して、人をあてにすることなく、自分から進んで、その改善策を積極的に考えて発表できたか。
- (2) いろいろな意見や立場の異なる級友の話を良く聞き、課題の解決に向けて、話し合い活動に取り組むことができたか。
- (3) 話し合い活動に積極的に参加し、級友の良い点を見つけながら、自分も集団の中の一人として協力して取り組もうとする雰囲気をつくれたか。

＜授業者反省＞

- ・ 改善点を話し合うのがメインだった。具体的な手だてをすれば、もっと意見が引き出せたのではないかと思う。
- ・ 司会の生徒が大変だった。
- ・ 初期の話し合いだったので、今後繰り返すことで話し合い活動もうまくなっていくと思われる。

＜意見交換より＞

- ・ 話し合い活動が充実していて、オリエンテーションの成果が出ている。
- ・ 学級目標の「...みんなで支え合い」ということばがよい。改善策を出そうと話し合いをしている子どもたちの姿に、学級をよりよくしようという思いが感じられる。
- ・ 板書を利用して、焦点化を図っていったほうがよいのではないか。また、話し合い活動はどれだけ多くの意見がすいあげられるかが大切である。
- ・ 事前の話し合いの時間確保は教師側がするべきである。
- ・ 学級運営委員会で焦点化までもっていかせる。そこである程度意見をまとめておいて、学級全体の話し合い活動にもっていったほうがよい。

＜指導助言より＞

- ・ 今までの取り組みの確認をしたほうがよかった。話題の共有ができ、焦点化ができる。
- ・ 教師はなるべく口を出さず、子どもたちに活動させる。子どもたちの思考をとめな

い。結果よりもその過程が大事である。

・ 単なる経過行事ではなく、文化祭を通して子どもたちのどこを伸ばしたいのかを明確にする。

・ より望ましい話し合いのためには、目標の明確化、時間の設定、意図的に目標達成場面を設定すること等が大切である。

(3) 体験的活動の推進

本校では、人間的な触れ合いを大切にし、心身の鍛練を図るために多くの体験的活動を実施している。

1年 ... 宿泊学習(5月)、郷土をテーマにした校外での調べ学習(11月)

福祉体験学習(3月)、リサイクル活動(年3回)

2年 ... 先輩に学ぶ社会人(5月)・高校生(3月)、修学旅行(11月)

リサイクル活動(年3回)

3年 ... 職場体験学習(5月)、リサイクル活動(年3回)

国・県のキャリア教育推進を受け、本校でも昨年度の2日間から5日間の実施に変更した。

< 成果と課題 >

成果

ア 働くことの「意義」「大変さ」を体得することができた。

イ 進路選択や今後の学習意欲の向上につながった。

ウ 人間関係づくり(特にあいさつ)の大切さを感じることができた。

課題

ア 実施計画の見直し(実施時期、事前学習の時間設定、事後指導の時間の確保)

イ 事業所の見直し

ウ 3年間を見通した進路指導の在り方

6 研究の成果と課題

(1) 成果

全職員で共通理解し共通実践することにより意識が高まり、協力して取り組む雰囲気が出てきた。

学校全体で学業指導をすることで、チャイム着席やあいさつなどがよくなった。授業態度も非常に落ち着いてきている。

話し合い活動のさせ方等、各学年で共通して取り組むことによって、ある程度の型ができた。今後さらに発展させたい。

特別活動の研修で、指導方法の工夫等実践として生かすことができた。

体験的活動を通して、自然愛護、公共の福祉、勤労の尊さ等、様々な道徳的価値観を実体験として学ぶことができた。

(2) 課題

全職員が参加できる校内研修の在り方を工夫する。

学習訓練は一定の成果があったが，来年度はもっと内容を工夫していく。

個別指導の時間の確保を教科または学年単位で検討していく。

学級・学年運営委員会を充実させるために，話し合い活動の視点や方法を工夫していく。